

【事業報告】

名桜大学生の学習支援ボランティア

Learning Support Volunteer by Meio University Students

上江洲 若 菜

要旨

これは、教職履修生を中心とした名桜大学生の学習支援ボランティアについて、まとめた事業報告である。名桜大学は、北部11市町村教育委員会と教育連携に関する協定を結び、この協定に基づいて、北部地区の小・中・高等学校等において、名桜大学生による様々な学習支援ボランティア活動が活発に展開されている。本稿は、北部地域で活躍する名桜大学生の様々な学習支援ボランティア活動について紹介し、活動を広く知ってもらうことにより、また新たな地域での学習支援ボランティア活動を創出する等、名桜大学生の学習支援ボランティア活動による地域貢献がより発展していくきっかけとなれば幸いである。

キーワード：学習支援ボランティア、北部11市町村教育委員会との教育連携に関する協定、地域貢献

I. 名桜大学生の学習支援ボランティアのはじまり

名桜大学生による学習支援ボランティアが行われるようになったのは、2008（平成20）年に、名桜大学と名護市教育委員会との連携に関する協定が調印されたことから始まる。それから、2011（平成23）年には、国頭村、恩納村と教育連携に関する協定を結び、2013（平成25）年には、北部11市町村（名護市、本部町、金武町、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、宜野座村、伊江村、伊平屋村、伊是名村）の教育委員会との教育連携に関する協定を調印した。これにより、北部地区全ての市町村との連携体制が整い、学習支援活動がより活発に行われるようになった。

1. 連携の内容について

2013（平成25）年に、調印された北部11市町村（名護市、本部町、金武町、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、宜野座村、伊江村、伊平屋村、伊是名村）の教育委員会との教育連携に関する協定の内容は、次のとおりである。

- ①教科・領域・外国語活動における学習支援
- ②心の相談や生活指導上配慮を要する子どもへの支援
- ③クラブ及び部活動におけるスポーツ活動支援
- ④読み聞かせ活動

⑤教育研究整備活動

- ⑥特別な支援を要する児童・生徒に対する生活・学習支援
- ⑦放課後や自治公民館等における児童生徒への学習支援
- ⑧学校における教育実習生の受け入れに関すること
- ⑨その他、甲、乙及び学校長の協議に基づく支援

現在、北部地域において活動している学習支援ボランティアは、この協定に基づいて展開されている。また、連携内容⑧の教育実習生の受け入れについても、重要な連携内容の一つであり、一括協定を結んだ2013（平成25）年から、北部12市町村の協力を得ながら、県外出身学生を中心に、全体の教育実習生の8割程度の学生を受け入れて頂いている。

II. 学習支援ボランティアの活動人数と活動地域

名桜大学の学習支援ボランティアの活動人数と活動地域は、統計調査を開始した2013（平成25）年と2014（平成26）年を例に説明する（図1）。

まず、2013（平成25）年は、全体で210人の学生が学習支援ボランティアに登録し、活動している。活動の地域は、154人の大半の学生が、名護市内で活動しており、続いて、本部町、今帰仁村でそれぞれ2人の学生が活動

している。その他は、年2回（春・秋）開催されるボランティア交流集会において、その時点でボランティア先は決定しなかったが、ボランティアを希望する学生の登録人数であり、その学生が52人登録していた。2013（平成25）年は、全体で210人という内訳となっている。

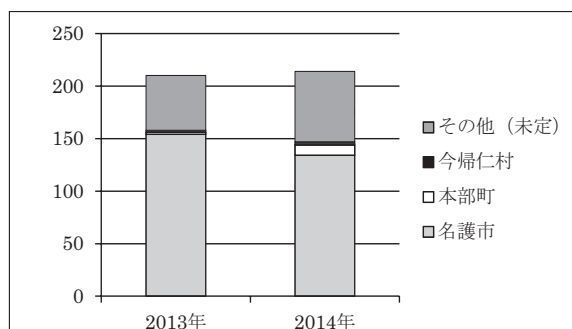


図1. 学習支援ボランティアの活動人数と活動地域

続いて、2014（平成26）年の内訳人数は、名護市内が134人、本部町が10人、今帰仁村が3人、その他、ボランティアを希望しているがボランティア先が未定の学生が67人という内容で、全体で214人となっている。

このグラフから見てわかるように、圧倒的な割合で名桜大学の学習支援ボランティアの活動地域は、名護市内が大半という結果となっている。

III. 学習支援ボランティア学生の状況について

図1の調査結果から、学習支援ボランティアをしている学生の活動人数は、名護市内が大半という状況であるが、名護市内（大学近郊）に集中する理由を図2の調査結果で説明する。

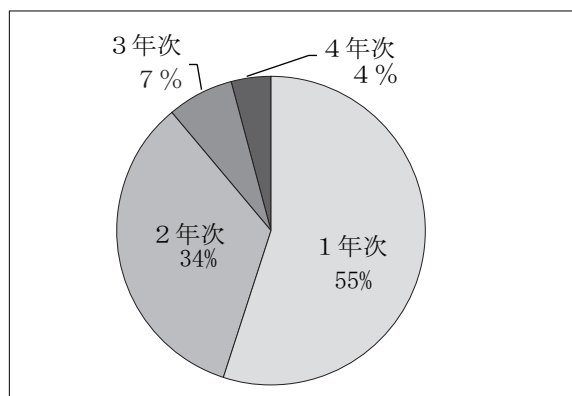


図2. 2014年度の学習支援ボランティア学生年次別グラフ

入学間もない1年次は、運転免許を取得していない、また、県外出身の入学者の増加により、先の運転免許を

取得していない事に加えて、入学したてで土地勘がないという事もあり、徒歩や通学バスで通える比較的、大学から近い場所で学習支援ボランティアを行うという1年次学生の傾向がある。

また、次に活動人数が多い2年次も、1年次から継続して同じ学校に学習支援ボランティアに行くという学生が多いという傾向があり、その結果、大半の学生が名護市内に集中しているという現状がある。

このような現状を踏まえて、教員養成支援センターにおいても、ぜひ名護市以外の遠方の地域において、ボランティアを派遣できないだろうかという想いがあり、そこで、学習支援ボランティアを活用したいという教育委員会や自治体の担当者と調整を重ねた。その結果、地域と連携した学習支援ボランティア事業を開始することができた。その取組みについては、次章で説明する。

IV. 名桜大学と連携した学習支援事業

1. 恩納村未来塾

恩納村未来塾は、2011（平成23）年に名桜大学と恩納村教育委員会が、教育連携に関する協定を調印したことを契機に、恩納村学力向上推進委員会、恩納村教育委員会、村内各中学校を開設者として、「恩納村未来塾」という学習支援事業がスタートした。

本事業は、高校受験を控えた恩納村内の中学3年生を対象に、10月初旬から高校受験直前の3月までの毎週火曜日と木曜日の週2回（18：30～20：00）、名桜大学の学生が講師となって高校受験対策を中心とした学習支援を行う事業内容となっている。本事業は、活動するボランティア学生に講師謝礼金や交通費も恩納村教育委員会から支給して頂いている有償のボランティアとなっている。参加している学生も、その間、他のアルバイトをせずに、学習支援ボランティアに集中して活動できるという事で非常に助かっているという報告を聞いている。

開設当初の2011（平成23）年は、初めての試みということもあり、テストケースで恩納村内の名桜大学から最も距離が近い安富祖中学校の1校から未来塾がスタートした。それから順調に事業は軌道にのり、2014（平成25）年からは、恩納村内にある全5校（恩納、安富祖、仲泊、山田、喜瀬武原）の中学校で未来塾を開講している。また、受講している中学生からも好評を得て、これまで半期で開講していたが、年間を通した開講ができないかという恩納村教育委員会の要望を受けて、現在調整を進めている。

2. 宜野座村漢那区の学習支援ボランティア

2014（平成26）年11月より、宜野座村漢那区で本学と連携した新たな学習支援事業がスタートした。本事業は、恩納村未来塾と同様に、宜野座村漢那区に在籍する中学3年生を対象とした学習支援であり、主に、高校受験指導を行っている。対象となる中学3年生は、漢那区が希望者を募集し、中学生の人数に応じて、学生ボランティアを配置している。活動時間は、毎週月曜日・水曜日・金曜日の週3回（18：30～20：00）となっている。本事業も講師謝礼金や交通費を漢那区に支給して頂いている有償のボランティアとなっている。

3. 国頭村滞在型ボランティア（チーム国頭）

国頭村では、2011（平成23）年に教育連携に関する協定に調印したことを契機に、特色ある学習支援活動がスタートしている。これまでの学習支援活動のスタイルとは異なり、国頭村内の民宿に宿泊しながら、学習支援活動を行う滞在型の学習支援ボランティアである。国頭村の教育環境として、学習支援塾等がなく、通塾するにも距離があり、遠方の塾に通わせることの負担も大きいという現状があることから、このような滞在型のボランティアが考案された。

活動は、児童・生徒の夏休み期間中の5日間、2回に期間を分けて実施している。また、滞在期間中の宿泊費や食費等もすべて国頭村教育委員会が負担している。2011（平成23）年にボランティアがスタートしてから、国頭中学校の夏季講座の学習支援活動や陸上指導、国頭村与那区の子どもの会の夏休みの宿題の支援を中心に行っていたが、本年度、2015（平成27）年は、初の試みとして、国頭中学校以外の村内の小・中学校に3～4人のグループに分かれて、学習支援や運動会等の地域行事に参加する活動を行い、参加した学生や地域の方々にも大変好評を得た。本年度2015（平成27）年度は、以下の日程で実施した。

1) 実施期間

- 第1クール：8月10日（月）～8月14日（金）
4泊5日
第2クール：9月9日（水）～9月13日（日）
4泊5日

2) 参加人数

- 第1クール：11人（女子11人）
第2クール：15人（男子6名、女子9名）
合計 26人

4. 離島滞在型学習支援ボランティアについて

2015（平成27）年に、初めて伊平屋島、伊是名島、水

納島の各5校において、5泊6日の日程で滞在型学習支援ボランティアを以下の日程で実施した。

- 1) 実施場所 伊平屋島（伊平屋小・中学校）
伊是名島（伊是名小・中学校）
水納島（水納小中学校）
合計5校
- 2) 実施日程
伊平屋島 平成27年9月14日（月）～9月18日（金）
伊是名島 平成27年8月31日（月）～9月4日（金）
水納島 平成27年9月14日（月）～9月18日（金）

今回、このボランティアに参加する希望者を教職履修中の学生を対象に応募したところ、約2週間程度で69名の応募があった。内訳は表1のとおりである。

表1. 離島滞在型ボランティア希望学生数

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
国際学群	38	1	0	1	40
スポーツ健康	24	2	1	0	27
看護	0	2	0	0	2
合計	62	5	1	1	69

69名の応募の中から、それぞれ合計14名の学生を以下のとおり派遣した。

3) 派遣先と人数

- 伊平屋島6人（伊平屋小、伊平屋中 各3人）
伊是名島6人（伊是名小、伊是名中 各3人）
水納島2人（水納小中学校2人）
合計14人（男子5人、女子9人 ※全て1年次）

今回のボランティア活動に際しての9つの心構えと求める学生について、説明会を開催し、参加学生に指導を行った。説明した点は以下のとおりである。

4) 活動に際しての心構えと求める学生

- ①明朗快活の者。
- ②心身ともに健康であること。
- ③活動期間中は健康保険証を持参すること。
- ④大学でボランティア保険に加入すること。
- ⑤リゾート感覚（観光目的）であってはならない。
- ⑥自分の特技（語学、スポーツ、習字、音楽等）をできるだけ発揮する機会を設けること。
- ⑦地域の住民（おじい、おばあ）とも仲良くすること。
また、地域の歴史、文化、伝統芸能にふれること。
地域の行事には、積極的に参加すること。
- ⑧20歳未満は飲酒・喫煙禁止。
- ⑨期間中は、学校や地域に対して迷惑行為をしない。

(迷惑行為があった場合、大学負担費用は取り消し、全て自己負担とする。)

特に、⑤については、受入校からの要望もあり、参加学生に対して、十分な説明をした。また、⑨についても、宿泊や宿泊に伴う食費等は大学が負担して行うため、学生にその点を十分に理解させた上で、ボランティアを実施した。

5) 活動報告について

平成27年10月9日(金)に開催された「平成27年度後学期ボランティア交流集会」において、離島滞在型学習支援ボランティアに参加した学生の活動報告会を実施した。この活動報告会では、参加した全ての学生がそれぞれの島のボランティア活動について報告したが、全体的に共通して聞かれた報告は以下のとおりである。

- ①学校や地域全体で子ども達を育てていく雰囲気があった。
- ②自分が生まれた島の事を誇りに思っている子が多くいた。
- ③中学を卒業後の島立ちに向けて意識をしている。
- ④一人一人が手厚い教育を受けられる。
- ⑤教員は学校にいない間も常に児童の事を考えていた。

離島、僻地という環境において、本土とは少し異なる島の教育の実態を肌で感じ取ることができ、約1週間の滞在という短期間ではあったが、島の教育、伝統文化、雄大な自然を体感して学ぶ教職を目指す学生にとって、大変貴重な体験となった。また、体験した学生からこのような意見を聞くことができたのは、企画した側としても、学生に島の教育現場を直に感じてもらう貴重な機会を与えることができ、大変有意義な活動であったと考えている。今後も受け入れて頂ける学校の協力を得ながら、



宜野座村漢那区の学習支援ボランティアの様子

離島滞在型学習支援ボランティアを継続的に企画・実施していきたい。

V. まとめ

名桜大学と地域が連携した学習支援事業は、他にも名護市教育委員会、社会福祉課が連携した名護市内の生活保護世帯・準要保護世帯の中学生を対象として行う無料塾「名護市学習支援教室びゅあ」や、新たな取組みとして、東村教育委員会と連携した滞在型学習支援ボランティアを2016(平成28)年2月に開催する予定で調整を進めており、名桜大学と地域が連携した魅力ある新たな学習支援活動のアイデアが次々と生み出されている。

これからもこの活動を通して生まれる北部地域の子どもたちや地域の人々との出会いと交流を大切にしながら、北部地域に溶け込んだ学習支援ボランティア活動を学生と共に継続し、さらに発展させていきたい。

【参考文献】

- 嘉納英明(2014)「沖縄県北部の離島・山間部における学習支援ボランティアの実践的研究 平成24-25年度三菱財団人文科学研究助成報告書」
名桜大学編(2014)『教職を拓く-名桜大学教職入門書-』株式会社東洋企画印刷



公民館で子どもたちの夏休みの宿題をお手伝い(チーム国頭)



地域の方々からたくさんの差し入れを頂く(チーム国頭)



学校環境整備活動(チーム国頭)



陸上指導、陸上支援(チーム国頭)



放課後、児童とブレイブボードで交流(チーム国頭)



運動会で綱引きに参加(チーム国頭)



小学校伝統の演目に地域の方々と一緒に参加(チーム国頭)



地域の祭りで児童のエイサー演舞を見学(チーム国頭)

